

## 研修視察報告

「有限会社 グリーンファーム清里」 藤本英喜

異常な少雨と高温が続く最中の7月23日、新潟県上越市の「有限会社グリーンファーム清里」へ視察訪問し、代表の保坂一八さんからお話を伺いました。

この農業法人は、水稲200ヘクタールを主に18名の従業員で営農活動を行っています。取扱農産物は、ホームページでも紹介されています。かなりリーズナブルな価格で展開しているので、ぜひアクセスしてみてください。

稲作においては、作付ほ場の栽培管理を全て従業員個人に割り当て、収穫量、品質を競い合わせ、栽培技術の向上を図っているとのことでした。

経営の多角化に向けては、従業員の提案によるワイン用葡萄や食用葡萄栽培、また、令和7年度(2025年度)からは畜産(清里牛)にも挑戦して

います。

代表の保坂さんはもちろんのこと、従業員もバイタリティがあります。挑戦した結果、決算で利益が出れば社員に特別ボーナスを支給されるルールだそうです。(ちなみに給料体系は地元の市役所と同一だそうです)

また、国からの助成金制度を活用するための思考を重ね、多面的機能支払制度等による水路、農地の保全活動を行うことで、助成金を有効利用しているなど、例を上げて説明がありました。どのようになれば補助金を受けられるのか日々、アンテナを張っているそうです。

最後になりますが、視察を終えて感じたことは、有限会社グリーンファーム清里は「すごい」の一言です。何とか真似して我々も、中山間地の耕作地を守りたい



▲ブドウ畑を見学



▲会社が管理する農地を示す地図

ものです。代表曰く、飯山でも出来ます、とのことでした。

## 前農業委員会会長 松永晋一さんが 飯山市から功労賞を受賞

松永晋一さんは、農業委員会長を12年間努められ、飯山市表彰式において功労賞を受賞されました。

### 農業委員会会長

### 12年を振り返って

松永 晋一

農業委員会では、県下19市の中で一番先に取り組めたことが4つありました。

- ① 農地取得に係る、農振農用地以外の農地下限面積を緩和  
移住希望者が家まわりの農地と建物を一体的に取得でき、移住促進につながった。
- ② 非農地判定の通知発出  
山林化した農地の登記地目の非農地化を進め、農地台帳の整備を進めた。
- ③ 農地パトロールへのタブレット端末の導入



GPS機能付きで、紙の地図に比べ、現地及び机上での作業効率が高めに上がりました。

④ 女性会長の選出および委員会22名の内の女性委員が7名、31.8(パーセント)はトップ

これらは、委員会が一丸となって取り組んだ成果であると考えます。活動いただいた農業委員をはじめ、農業生産に携わる農家や関係者のみなさまに感謝申し上げます。

## 飯山地区の地域計画の取り組みについて

飯山地区農業委員 高澤 富士子

飯山地区は市街地を含みながらも、多くの小規模農地が点在する地域ですが、千曲川に沿った堤内農地や木島地区側の堤外農地も一部飯山地区籍であること、地区北部の有尾に広がる田畑や県道飯山斑尾新井線沿いの山間部にも広く農地があります。

『地域計画』とは、将来に向けて大切な農地を守り、その地域の将来の農業の在り方をどのようにしていきたいのか地域の農業者を中心に地区全体で考えていくものです。何もしなければ、ただただ個々の農業者の離農が進み、荒れ果てた農地が増える一方です。そこで、地域の農業関係者で話し合い、相互理解のもとで農業を含めた地域全体の土地利用を考えていくというものです。

農地は長年にわたりその売買には制限が設けられる等、農地を守っていくための施策が考えられてきました。しかし、昨今の人口減

少や離農の実情に即し、農地の売買における制限は緩和され、さまざまな人が農業に関わることのできる環境が整いつつあります。その一方で、現在農業を担う人々の高齢化は否めず、将来の農地の活用を「今」考えなければならぬことが必要に迫られています。

飯山地区では、まず現状をしっかりと把握することを大前提に目標地図を作成しました。

農地を所有する認定農業者、新規就農者他、中間管理機構より農地を借りている農業者等を軸に、10年後の耕作の可能性を鑑み、75歳以下の農業者、自作・借入面積又は水稲生産計画書で作付面積が10アール以上の農業者等をピックアップして名簿作成し、それをもとに地図に落とし込む作業を行いました。これが飯山地区の地域計画になっています。

飯山地区の課題は、小規模な農地が多く、温暖化

## ～飯山地区農業再生センター主催～ いいやま軽トラ朝市を開催しました。

7月27日に雪と寺のまちシンボル広場で開催された軽トラ朝市では、軽トラ6台が並び、各地より出店者が集まり、ナス、ズッキーニ、ブルーベリーなど自慢の農産物や加工品などを持ち寄っていただきました。暑い中でしたが、来場者は60名ほどで、いつも通りの顔ぶれの人たちに加えて小さな子どもを連れた若いご家族が多く、賑やかに買い物をしていました。



11月の開催に向けて、秋野菜の販売ができるように頑張っていきたいと思っています。

常に地域で話し合いを続け、目指すべき農業の姿に向けてこれからも皆さんで取り組んでいきましょう。

## あしあと 7・8月の活動記録

- 7月10日 農業委員会役員会
- 23日 管内視察
- 26日 7月農業委員会総会
- 〃 農業振興農政対策委員会・情報委員会
- 8月7日 農業委員会役員会
- 26日 北信州農村女性のつどい
- 27日 8月農業委員会総会

## 地域計画 — 地域の農業を守る —

『地域計画』とは…

10年後、地域の農業をどんな農業にしていきたいか、大切な農地を、どう守り、次の世代につないでいくのかを地域の(そこに住んでいる)農業関係者等で話し合い、目指すべき将来の農地利用の姿(目標地図)を明らかにする計画です。